

平成28年9月9日

平成28年夏期における水難・山岳遭難発生状況について

警察庁生活安全局地域課

平成28年夏期（7～8月）における水難発生状況

1 概要

(1) 全国の発生状況

平成28年夏期における水難は

○ 発生件数	614件	(前年対比 +37件)
○ 水難者	735人	(前年対比 +62人)
うち死者・行方不明者	304人	(前年対比 +37人)

であった。

このうち、中学生以下の子供（以下「子供」という。）は

○ 発生件数 ^{※1}	98件	(前年対比 -21件)
○ 水難者	132人	(前年対比 +1人)
うち死者・行方不明者	19人	(前年対比 -10人)

であった。

過去5年間の水難発生状況を見ると、年毎の変動はあるものの、平成24年と比較すると、

○ 発生件数	- 6件	(-1.0%)
○ 水難者	- 27人	(-3.5%)

となっている。

※1 子供の水難発生件数は、「子供のみ」で水難にあった件数であり、「高校生相当の年齢」以上の同伴者とともに水難にあった場合を含まない。

(2) 都道府県別水難発生状況

水難発生件数を都道府県別にみると、多い順に

① 千葉県	35件
② 茨城県	30件
③ 北海道	29件

であった。

2 水難の特徴と未然防止対策

(1) 場所別・行為別（死者・行方不明者）

死者・行方不明者304人について、発生した場所別にみると、多い順に

○ 海	162人	(53.3%)
○ 河川	101人	(33.2%)

であり、行為別にみると、多い順に

○ 魚とり・釣り	79人	(26.0%)
○ 水泳	60人	(19.7%)

である。

中学生以下の子供の死者・行方不明者19人について、発生場所別にみると、多い順に、

- 河川 12人 (63.2%)
- 湖沼池 3人 (15.8%)
- 海、プール それぞれ2人 (10.5%)

であり、行為別にみると、多い順に

- 水遊び 11人 (57.9%)
- 水泳 3人 (15.8%)
- 魚とり・釣り 2人 (10.5%)

である。

(2) 水難の未然防止対策

水難を未然に防ぐためには、以下のような点に留意する必要がある。

○ 危険箇所の把握

魚とり・釣りでは、転落等のおそれがある場所、水泳や水遊びでは、水（海）藻が繁茂したり、水温の変化や水流の激しい場所、深みのある場所等の危険箇所を事前に把握して、近づかない。

また、子供を危険箇所に近づけない。

○ 的確な状況判断

風雨、落雷などの天候不良時、河川の増水など水難のおそれが高いときには、釣りや水泳を行わない。また、体調が悪いとき、飲酒したときなどは、海、河川に入らない。

○ ライフジャケットの活用

釣りやボート等で水辺に行くときは、必ずライフジャケットを着用（体のサイズに合った物を選び、正しく着用）する。

○ 遊泳時の安全確保

- ・ 掲示板、標識等により危険区域と標示された区域内に入らない。
- ・ 遊泳区域を標示する標識、浮き等を移動し、又は損壊しない。
- ・ 遊泳区域以外の水域で遊泳しない。
- ・ 遊泳中、他人に抱きつくなどの遊泳上危険な行為をしない。
- ・ 遊泳に当たっては、水深、水流を考慮し、安全な方法で遊泳する。

○ 保護者等の付き添い

子供の水難防止のため、子供一人では水遊び等をさせず、幼児や泳げない学童等には、ライフジャケットを着用させ、その者を保護する責任のある者が付き添うなどして、目を離さないようにする。

注：％は、小数点以下第2位を四捨五入。（表3～7においても同じ。そのため、合計の数字と内訳の計が一致しない場合がある。）

表1 夏期の水難発生状況(過去5年)

	平成24年		平成25年		平成26年		平成27年		平成28年	
	総数	子供	総数	子供	総数	子供	総数	子供	総数	子供
発生件数(件)	620	122	573	118	475	111	577	119	614	98
水難者(人)	762	192	664	155	576	135	673	131	735	132
死者・行方不明者	290	29	282	25	239	28	267	29	304	19
死者	287	29	277	24	236	28	263	29	295	19
行方不明者	3	0	5	1	3	0	4	0	9	0
負傷者	150	43	132	40	115	31	160	33	147	32
無事救出	322	120	250	90	222	76	246	69	284	81

注1:夏期とは、7～8月の2か月間をいう(以下同じ。)

注2:子供とは、中学生以下の者をいう(以下同じ。)

注3:「発生件数(件)」の、「子供」欄は水難者が子供のみであった件数を示す。

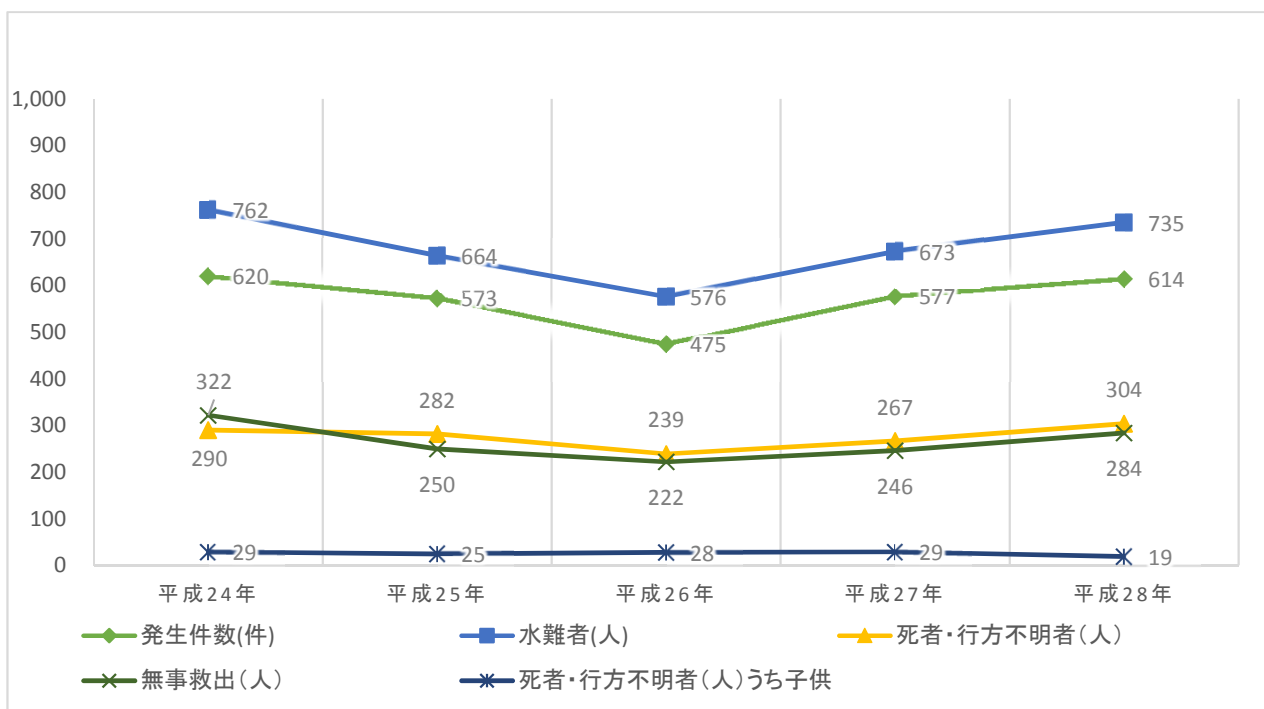


表2 都道府県別水難発生状況

平成28年

	発生件数		水難者総数										
		うち子供	うち子供	死者		行方不明者		負傷者		無事救出			
					うち子供		うち子供		うち子供		うち子供		
北海道	29	2	41	2	13		1		2		25	2	
東北	青森	6		6		3					3		
	岩手	3		3		2					1		
	宮城	8		13	3	6	2		1		6	1	
	秋田												
	山形	7		9		2			1		6		
	福島	9	3	11	4	3			2		6	4	
警視庁	10		12	1	4		1		4		3	1	
関東	茨城	30	8	33	9	12	2	3		6	1	12	6
	栃木	4	1	6	2	2	1				4	1	
	群馬	1		1					1				
	埼玉	15	2	21	2	4			1		16	2	
	千葉	35	3	43	5	9	1	2		11	1	21	3
	神奈川	26	4	34	9	7			15	4	12	5	
	新潟	25	5	26	5	11			5	2	10	3	
	山梨	2	1	3	2	2	1				1	1	
	長野	3		3		3							
	静岡	27	2	36	2	14	1			12		10	1
中部	富山	12	1	13	1	9			3	1	1		
	石川	10	1	17	1	8			1		8	1	
	福井	18	4	18	4	8			3	2	7	2	
	岐阜	22	1	23	1	17			1		5	1	
	愛知	15	3	20	3	6	1		2		12	2	
	三重	20	2	23	3	13	1		5		5	2	
近畿	滋賀	12	2	15	2	5	1		2		8	1	
	京都	9	1	11	1	5			2		4	1	
	大阪	20		20		16			1		3		
	兵庫	11	5	11	5	5			2	2	4	3	
	奈良	9	1	11	2	6	1		2		3	1	
	和歌山	23	8	24	9	5			10	2	9	7	
中国	鳥取	8	3	9	3	5		1			3	3	
	島根	9	1	11	1	4			5		2	1	
	岡山	10	3	10	3	7					3	3	
	広島	8	1	8	1	3			2	1	3		
	山口	9	2	12	2	4	1		4	1	4		
四国	徳島	6	2	6	2	4	1	1	1	1			
	香川	9	2	13	3	5			1		7	3	
	愛媛	8	1	9	1	3			3	1	3		
	高知	17	3	17	3	13	2		1		3	1	
九州	福岡	21	7	23	7	7	2		9	4	7	1	
	佐賀	9	1	11	3	3			1		7	3	
	長崎	17	4	19	5	8			5	2	6	3	
	熊本	5		8		2					6		
	大分	16	1	20	3	10	1				10	2	
	宮崎	6	3	13	10	2					11	10	
	鹿児島	12	1	13	1	3			6	1	4		
	沖縄	23	3	26	6	12			14	6			
計	614	98	735	132	295	19	9		147	32	284	81	

表3 場所別 死者・行方不明者数

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
海	150	144	109	151	162	53.3%
河川	100	99	101	88	101	33.2%
湖沼池	19	16	6	10	16	5.3%
用水路	18	18	19	13	20	6.6%
プール	3	5	2	3	5	1.6%
その他	0	0	2	2	0	0.0%
合計	290	282	239	267	304	

表4 場所別 死者・行方不明者(子供)数

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
海	8	10	9	11	2	10.5%
河川	16	11	15	12	12	63.2%
湖沼池	3	3	1	2	3	15.8%
用水路	1	0	3	1	0	0.0%
プール	1	1	0	2	2	10.5%
その他	0	0	0	1	0	0.0%
合計	29	25	28	29	19	

表5 行為別 死者・行方不明者数

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
水泳	76	72	53	56	60	19.7%
水遊び	55	55	53	44	49	16.1%
魚とり・釣り	64	68	31	61	79	26.0%
作業中	8	16	17	9	18	5.9%
通行中	13	23	17	22	10	3.3%
その他	74	48	68	75	88	28.9%
陸上における遊戯・スポーツ中	5	1	2	0	1	0.3%
ボート遊び	1	1	4	2	2	0.7%
水難救助活動	11	4	5	2	8	2.6%
シュノーケリング	57	42	57	24	12	3.9%
スキューバダイビング					4	1.3%
サーフィン				5	1.6%	
その他				42	7	2.3%
不明					49	16.1%
合計	290	282	239	267	304	

注1:平成27年から、「その他」から「シュノーケリング」、「サーフィン」、「スキューバダイビング」、「不明」を分離計上。

注2:「不明」は、従来「その他」に含まれていた原因不明の事故を示す。

表6 行為別 死者・行方不明者(子供)数

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
水泳	4	7	3	7	3	15.8%
水遊び	18	15	17	14	11	57.9%
魚とり・釣り	1	1	1	0	2	10.5%
作業中	0	0	0	0	0	0.0%
通行中	1	0	1	2	1	5.3%
その他	5	2	6	6	2	10.5%
陸上における遊戯・スポーツ中	2	0	0	0	1	5.3%
ボート遊び	0	0	1	0	0	0.0%
水難救助活動	1	0	1	0	0	0.0%
シュノーケリング	2	2	4	3	0	0.0%
スキューバダイビング					0	0.0%
サーフィン				0	0.0%	
その他				3	0	0.0%
不明					1	5.3%
合計	29	25	28	29	19	

注1:平成27年から、「その他」から「シュノーケリング」、「サーフィン」、「スキューバダイビング」、「不明」を分離計上。

注2:「不明」は、従来「その他」に含まれていた原因不明の事故を示す。

表7 年齢層別 死者・行方不明者数

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
子 供	29	25	28	29	19	6.3%
未就学児童	9	5	3	8	3	1.0%
小 学 生	11	14	15	11	10	3.3%
中 学 生	9	6	10	10	6	2.0%
高校生又はこれに相当する年齢の者	13	12	12	15	13	4.3%
高校卒業に相当する年齢以上65歳未満の者	164	134	118	133	148	48.7%
65歳以上の者	84	111	81	90	122	40.1%
不 明					2	0.7%
合計(人)	290	282	239	267	304	

表8 夏期における水難発生状況

年 別	発生件数		水 難 者					
			死者・行方不明者		負傷者・無事救出		合 計	
	6月	7・8月	6月	7・8月	6月	7・8月	6月	7・8月
昭和41年	3,814		2,488		1,326		3,814	
昭和42年	3,239		2,295		1,464		3,759	
昭和43年	2,629		1,839		1,191		3,030	
昭和44年	2,681		1,923		1,098		3,021	
昭和45年	2,311		1,643		1,031		2,674	
昭和46年	2,547		1,733		1,249		2,982	
昭和47年	3,038		2,063		1,421		3,484	
昭和48年	2,298		1,592		954		2,546	
昭和49年	2,471		1,585		1,258		2,843	
昭和50年	2,430		1,520		1,253		2,773	
昭和51年	2,318		1,424		1,307		2,731	
昭和52年	2,244		1,394		1,220		2,614	
昭和53年	2,231		1,430		1,172		2,602	
昭和54年	2,008		1,237		1,086		2,323	
昭和55年	1,883		1,060		1,180		2,240	
昭和56年	1,996		1,155		1,155		2,310	
昭和57年	1,905		1,053		1,246		2,299	
昭和58年	1,750		1,017		1,080		2,097	
昭和59年	1,664		999		931		1,930	
昭和60年	1,702		1,015		933		1,948	
昭和61年	1,447		892		759		1,651	
昭和62年	1,321		760		775		1,535	
昭和63年	1,322		731		946		1,677	
平成元年	1,327		735		788		1,523	
平成 2年	1,295		703		767		1,470	
平成 3年	1,185		634		791		1,425	
平成 4年	1,049		552		631		1,183	
平成 5年	1,063		555		752		1,307	
平成 6年	1,189		687		700		1,387	
平成 7年	1,000		588		518		1,106	
平成 8年	942		542		553		1,095	
平成 9年	1,018		559		618		1,177	
平成10年	1,010		567		593		1,160	
平成11年	1,092		622		714		1,336	
平成12年	1,012		561		694		1,255	
平成13年	925		530		559		1,089	
平成14年	929		483		648		1,131	
平成15年	697		366		509		875	
平成16年	787		436		499		935	
平成17年	730		403		558		961	
平成18年	761		391		529		920	
平成19年	766		429		448		877	
平成20年	739		391		478		869	
平成21年	128	649	78	333	67	470	145	803
平成22年	127	725	71	372	90	477	161	849
平成23年	104	590	61	286	59	497	120	783
平成24年	94	620	58	290	52	472	110	762
平成25年	集計なし	573	集計なし	282	集計なし	382	集計なし	664
平成26年	集計なし	475	集計なし	239	集計なし	337	集計なし	576
平成27年	集計なし	577	集計なし	267	集計なし	406	集計なし	673
平成28年	集計なし	614	集計なし	304	集計なし	431	集計なし	735

平成28年夏期（7～8月）における山岳遭難発生状況

1 概要

(1) 全国の発生状況

平成28年夏期における山岳遭難は

○ 発生件数 660件（前年対比 +13件）

○ 遭難者 753人（前年対比 -29人）

うち死者・行方不明者

48人（前年対比 -17人）

であり、発生件数は、統計の残る昭和43年以降で最も高い数値となった。

過去5年間の山岳遭難発生状況をみると、発生件数・遭難者とも増加傾向にあり、平成24年と比較すると

○ 発生件数 +108件（+19.6%）

○ 遭難者 +77人（+11.4%）

となっている。

(2) 都道府県別の発生状況

山岳遭難の発生件数を都道府県別にみると、

① 長野県 107件 ② 静岡県 84件 ③ 富山県 62件

の順であった。

2 山岳遭難の特徴と未然防止対策

(1) 目的別・態様別・年齢層別

全遭難者753人について、目的別にみると、登山（沢登り、ハイキング、岩登り、スキー登山を含む。）が81.0%と最も多く、次いで、観光が11.0%を占めている。

また、態様別にみると、道迷いが25.5%と最も多く、次いで転倒が23.1%、病気が15.7%を占めている。

年齢層別にみると、40歳以上が全遭難者の74.6%、60歳以上が全遭難者の46.7%を占めている。

(2) 山岳遭難の未然防止対策

山岳遭難の多くは、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備で体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力の不足等が原因で発生していることから、遭難を未然に防ぐため、登山に当たっては、以下のような点に留意が必要である。

○ 登山計画の作成、提出

気象条件、体力、体調、登山の経験等に見合った山を選択し、登山コース、日程、十分な装備、食料等に配慮して、余裕のある安全な登山計画を立てる。単独登山はできるだけ避け、信頼できるリーダーを中心とした複数人によ

る登山に努める。

また、作成した登山計画書は、家庭や職場、登山口の登山届ポストなどに提出しておく。

○ 危険箇所の把握

計画を立てるとき、滑落等の危険箇所を事前によく調べる。

○ 的確な状況判断

視界不良・体調不良時等には、滑落、道迷い等のおそれがあることから、状況を的確に判断して早めに登山を中止するよう努める。

○ 滑落・転落防止

滑りにくい登山靴、ストック等の装備を有効に使用するとともに、気を緩めることなく常に慎重な行動を心掛ける。

○ 道迷い防止

地図、コンパス等を有効に活用して、常に、自分の位置を確認するよう心掛ける。

注：％は、小数点以下第2位を四捨五入。（表3～5においても同じ。そのため、合計の数字と内訳の計が一致しない場合がある。）

表1 概要

(夏期)

		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	
発生件数(件)		552	569	583	647	660	
遭難者 (人)	死者・行方不明者	死者	34	51	48	61	45
		行方不明者	2	4	4	4	3
		小計	36	55	52	65	48
	負傷者	321	305	310	342	357	
	無事救出	319	265	337	375	348	
	合計	676	625	699	782	753	

注: 夏期とは、7~8月の2か月間をいう(以下同じ)。

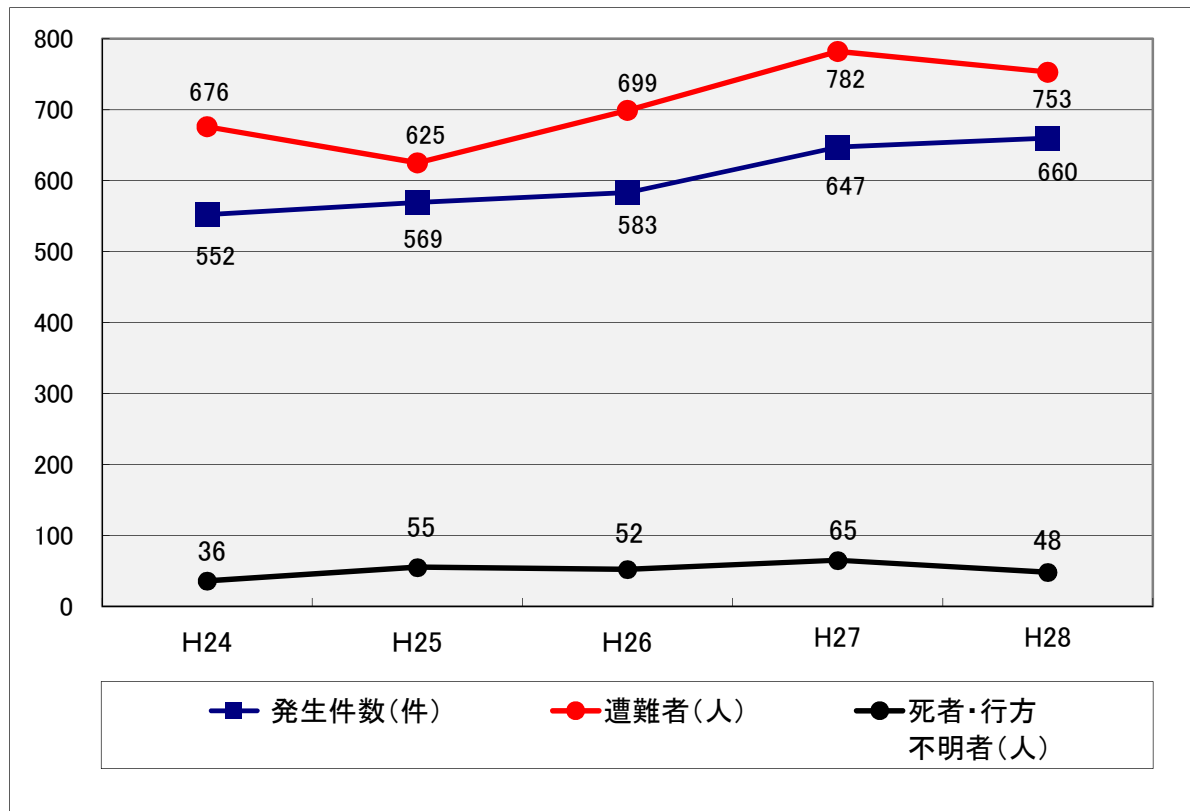


表2 都道府県別山岳遭難発生状況

(平成28年夏期)

都道府県	発生件数 (件)	遭 難 者 数 (人)				
		死者	行方不明者	負傷者	無事救出	
北海道	27	28	2	1	11	14
青森県	4	4			3	1
岩手県	9	10			4	6
宮城県	2	2			2	
秋田県	5	13			3	10
山形県	23	27	4	1	10	12
福島県	18	19	2		14	3
東京都	17	20	1		5	14
茨城県	4	5	1		2	2
栃木県	7	7	2		5	
群馬県	23	24	1		23	
埼玉県	12	17	2		5	10
千葉県	1	2			1	1
神奈川県	13	19	2		6	11
新潟県	23	28	1		15	12
山梨県	48	49	6		34	9
長野県	107	110	9		60	41
静岡県	84	89	2		39	48
富山県	62	64	2		35	27
石川県	13	14			11	3
福井県	1	1				1
岐阜県	35	39	3		17	19
愛知県	4	9			1	8
三重県	7	7	1		3	3
滋賀県	14	39			8	31
京都府	3	3	1			2
大阪府	2	3			1	2
兵庫県	21	26	1		11	14
奈良県	12	13			8	5
和歌山県						
鳥取県	7	7			6	1
島根県	2	2				2
岡山県	1	1				1
広島県	2	2	1			1
山口県						
徳島県						
香川県						
愛媛県	10	10			5	5
高知県						
福岡県	6	6			1	5
佐賀県	2	2				2
長崎県	3	3		1	1	1
熊本県						
大分県	11	12			2	10
宮崎県	5	6	1		1	4
鹿児島県	9	10			3	7
沖縄県	1	1			1	
合計	660	753	45	3	357	348

表3 目的別山岳遭難者

(夏期)

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
登山	497	432	526	625	559	74.2%
沢登り	21	12	16	18	22	2.9%
ハイキング	32	14	24	9	21	2.8%
岩登り	2	12	5	9	8	1.1%
スキー登山	0	0	1	1	0	0.0%
登山(合計)	552	470	572	662	610	81.0%
観光	51	91	66	63	83	11.0%
作業	8	24	13	6	13	1.7%
溪流釣り	12	8	8	7	12	1.6%
山菜・茸採り	13	9	10	25	10	1.3%
写真撮影	3	4	5	4	1	0.1%
自然観賞	0	1	0	1	3	0.4%
山岳信仰	9	4	5	2	4	0.5%
狩猟	1	0	0	0	0	0.0%
スキー					0	0.0%
その他	24	13	20	9	17	2.3%
不明	3	1	0	3	0	0.0%
合計	676	625	699	782	753	100.0%

注:平成27年から、「その他」から「スキー」を分離計上。

表4 態様別山岳遭難者

(夏期)

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
道 迷 い	198	128	223	195	192	25.5%
転 倒	145	158	151	154	174	23.1%
病 気	83	117	87	116	118	15.7%
滑 落	95	83	101	97	109	14.5%
疲 労	55	57	62	68	71	9.4%
転 落	29	24	15	26	24	3.2%
野 生 動 物 襲 撃	6	8	9	14	7	0.9%
落 石	3	5	7	8	5	0.7%
鉄 砲 水	6	3	0	34	1	0.1%
悪 天 候	3	14	7	9	0	0.0%
雪 崩	0	0	0	0	0	0.0%
落 雷	2	2	0	1	0	0.0%
有 毒 ガ ス	0	0	0	0	0	0.0%
そ の 他	48	21	28	52	45	6.0%
不 明	3	5	9	8	7	0.9%
合 計	676	625	699	782	753	100.0%

表5 年齢層別山岳遭難者

(夏期)

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
20 歳 未 満	82	54	44	69	68	9.0%
20 ~ 29	63	61	61	72	55	7.3%
30 ~ 39	62	49	50	74	68	9.0%
40 ~ 49	79	78	82	98	99	13.1%
50 ~ 59	99	101	117	122	111	14.7%
60 ~ 69	186	156	208	196	197	26.2%
70 ~ 79	96	116	123	130	130	17.3%
80 ~ 89	9	10	14	17	24	3.2%
90 歳 以 上	0	0	0	1	1	0.1%
不 明	0	0	0	3	0	0.0%
合 計	676	625	699	782	753	100.0%

表6 夏期における山岳遭難発生状況

年 別	発生件数	遭 難 者			合 計
		死者・行方不明者	負傷者	無事救出	
昭和43年	165	39	128	81	248
昭和44年	136	34	109	29	172
昭和45年	190	46	137	47	230
昭和46年	190	50	136	34	220
昭和47年	168	37	136	37	210
昭和48年	168	25	130	43	198
昭和49年	166	51	95	83	229
昭和50年	210	46	158	112	316
昭和51年	181	35	115	100	250
昭和52年	172	31	106	73	210
昭和53年	161	28	94	65	187
昭和54年	164	48	105	36	189
昭和55年	143	40	123	53	216
昭和56年	168	39	109	36	184
昭和57年	148	37	111	47	195
昭和58年	153	44	97	54	195
昭和59年	183	39	121	42	202
昭和60年	152	22	99	72	193
昭和61年	163	35	112	53	200
昭和62年	153	25	117	48	190
昭和63年	188	39	104	67	210
平成元年	181	27	109	111	247
平成2年	166	29	95	72	196
平成3年	203	30	137	74	241
平成4年	169	31	94	87	212
平成5年	196	45	108	57	210
平成6年	231	33	131	87	251
平成7年	238	39	150	89	278
平成8年	297	51	177	118	346
平成9年	246	47	158	67	272
平成10年	291	55	160	133	348
平成11年	341	57	202	144	403
平成12年	400	52	264	121	437
平成13年	350	46	240	111	397
平成14年	380	52	251	137	440
平成15年	362	47	229	150	426
平成16年	353	51	241	134	426
平成17年	345	60	212	131	403
平成18年	346	41	224	140	405
平成19年	410	48	226	172	446
平成20年	453	79	241	205	525
平成21年	409	65	216	223	504
平成22年	530	77	283	251	611
平成23年	486	61	252	257	570
平成24年	552	36	321	319	676
平成25年	569	55	305	265	625
平成26年	583	52	310	337	699
平成27年	647	65	342	375	782
平成28年	660	48	357	348	753